利尻研究 Rishiri Studies (36): 21-23, March 2017

# 利尻小学校に保管されていたアカショウビン標本

佐藤雅彦 [1)]・山谷文人 [2)]

[1)] 〒 097-0311　北海道利尻郡利尻町仙法志　利尻町立博物館
[2)] 〒 097-0101　北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野 6　利尻富士町教育委員会

# A Specimen of Ruddy Kingfisher Preserved in the Elementary School in Oniwaki, Rishiri Island, Northern Hokkaido

Masahiko Satô[1)] and Fumito Yamaya[2)]

[1)]Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan
[2)]Rishirifuji Town Board of Education, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan

**Abstract.** A specimen of Ruddy Kingfisher, *Halcyon coromanda* (Latham, 1790), has been preserved since 1970 in the elementary school in Oniwaki, Southern Rishiri Island. Due to the lack of a specimen label, it was unclear where and how the specimen was prepared. Our detailed examination of several descriptions on its wooden mount results in the first record of this species from Rishiri Island. The bird was collected by Masami Hayashi at Takinosawa, Oniwaki, in June 1970, and Sukematsu Komori, a teacher at the elementary school of Kuzure, prepared the specimen.

利尻富士町立利尻小学校は，利尻富士町鬼脇地区の唯一の小学校である．創立は 1886 年で，利尻島郷土資料館が 1973 年に開館するまでは，おそらく同地域で得られた様々な資料などが持ち込まれたことが想像される．2013 年，同校では理科室などに保存されていた標本類の整理を行い，その中の数点が利尻富士町教育委員会にて保存されることとなった．この中に鳥類標本があり，アカショウビンの本剥製 1 点が含まれていた．残念ながら本個体には標本ラベルが添付されておらず，いつどこで誰が得た個体か不明であった．本種は礼文島からの記録はあるが（西村，1963；宮本，2016），これまで利尻島におけるカワセミ科の記録は，カワセミ（西村，1963），ヤマショウビン（疋田・小杉・佐藤，2007），ヤマセミ（田牧，2001）の 3 種のみで，アカショウビンは含まれていなかった．本稿では同標本の台座に記されていた記述から検討を行い，本個体が利尻島から得られた標本との結論に達したので，本島の鳥類記録に新たにアカショウビンを加え

図 1．利尻小学校に保存されていたアカショウビン標本．

るものである．

なお，本資料に関する情報をご提供いただいた利尻森林事務所，小杉和樹さん（利尻町沓形），梅田京子さん（利尻富士町鬼脇）に，心からお礼申し上げる．

標本（図１）は，木製の台座（21 × 11 × 5.5cm）の止まり木（高さ 6cm，横 10cm，根元の直径 4.5cm）に，翼をたたんだ状態で右向きに取り付けられていた．標本ラベルは見当たらなかったが，台座正面には「アカショービン」，台座上面には「製作者　小森助松」，台座背面には「1970.6.4　利尻島鬼脇滝ノ沢　林　正美」と記されていた（図２）．

標本には褪色がみられたが，カワセミ類に特徴的な太い嘴と，上面全体が赤褐色，腰の部分には縦長の水色の斑紋が認められ，アカショウビンの特徴と合致していた．計測値は露出嘴峯長：49.6mm，跗蹠長：21.0mm，自然翼長：123.0mm，尾長：69.0mm であった．

標本商などから購入した標本には，製作元の社名が記入されていることが多いが，本標本の製作には個人名が明記されており，利尻小学校が教材として購入したものとは思えなかった．また，通常の剥製の製作過程では，眼球をガラス製の義眼などに置き換える処置がされることが通例であるが，眼球が未処置のまま残されていることからも，剥製作製の技術者によって作られた標本とは考えにくかった．そこで，製作者名の「小森助松」氏について情報収集を行ったところ，台座に記されていた 1970 年と同時期に利尻島で教員をしていた方と同姓同名であることが判明した．この小森助松氏は，1955（昭和 38）年に利尻町立沓形小学校に赴任し，研究教科は理科の教員であった（沓形小学校創立七十周年記念協賛会，1964；沓形小学校開校八十周年記念協賛会，1973）．その後，1965（昭和 40）年から久連小学校に異動となり，６年間教鞭をとられた（開校八十五年閉校記念事業実行委員会，1987）．利尻島に在住時は植物標本などの作製とその教材化をすすめたほか，高山植物の盗掘や登山者のマナーに心を痛めていたようで，自然に対して多大なる興味関心があった方と思われた（小森，1965）．そのため，鳥類の剥製方法についてもなんらかの知見や経験があった可能性があり，台座に記された製作者氏名はこの小森氏を示すと考えられた．

次に，このアカショウビンがどこから持ち込まれたものかについても，台座背面に記された年月日，場所，氏名から推測することができた．まず，氏名の「林正美」氏については，当時鬼脇に在住していた「鬼脇劇場」の経営者であった．在住する地域が異なる林氏と標本製作者である小森氏がどのようないきさつで標本の受け渡しなどが行われたのかは不明であるが，林氏が手に入れたアカショウビンを，島内の理科教員が剥製にしたことは，決して不自然なことではないだろう．

林氏は鬼脇劇場のすぐ裏に居住しており（若林，1961），付近には滝ノ沢川が走る．そのため，台座

図２．台座に記された文字．A: 和名と制作者名，B: 年月日，地名，氏名．

の氏名に添えられた「利尻島鬼脇滝ノ沢」の場所は，林氏の居住地を示した可能性も想像されたが，地元では鬼脇市街を滝ノ沢川を境に東西にわけて呼ぶ古くからの慣習があり，あえてこの場所を呼ぶのであれば「六部」になり，「滝ノ沢」とは呼ばないという．よって，台座に記された場所は林氏の住所ではなく，おそらく本個体が得られた場所，採集地を示しているものと考えられた．

以上のことから，利尻小学校に保管されていたアカショウビン標本は鬼脇滝ノ沢で得られた可能性が高く，標本が作製されて 46 年たった今，本島の鳥類記録に新たな種として追加される貴重な証拠標本となった．

## 参考文献

疋田英子・小杉和樹・佐藤雅彦，2007．利尻・礼文両島におけるヤマショウビンの記録．利尻研究，(26): 35-37.

開校八十五年閉校記念事業実行委員会，1987．閉校記念誌　玖津礼．105pp.

小森助松, 1965. 利尻・礼文の植物 - 珍しい黒百合 -. 札幌林友，(123):21-31.

沓形小学校創立七十周年記念協賛会，1964．沓形小学校七十年史．73pp.

沓形小学校開校八十周年記念協賛会，1973．開校八十周年記念誌．173pp.

宮本誠一郎，2016．礼文島の鳥類 (1)．利尻研究，(35): 67-82.

西村　弘，1963．利尻．礼文島野鳥棲息状況調査記録．自刊．25pp.

田牧和広，2001．利尻島における鳥類の新分布の記録．利尻研究，(20): 29-34.

若林芳雄, 1961. 東利尻町全町明細圖. 北日本出版.